当院画像診断センターのコロナ対策

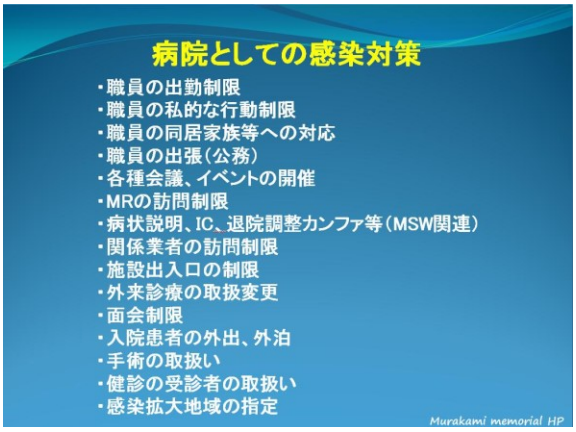
○渡部　祐樹[1)]、仁科　蓉子[1)]、菊池　潤子[1)]、村上　優騎[1)]、小山　裕貴[1)]、越智　泰隆[1)]
[1)]村上記念病院　画像診断センター

【背景】

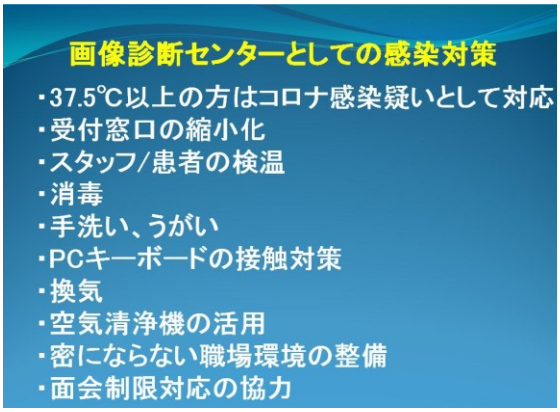
2020年1月より新型コロナウィルスが全世界で猛威を奮う中、当院においてもその対応に迫られました。

どのように対応すればよいか情報が錯綜し手探りでの対応から始まった。現在は対応について、関係省庁・他施設など から情報提供もあり、それを参考にして 当院画像診断センターでの対応策を行っています。

【病院としての感染対策】



【画像診断センターとしての感染対策】

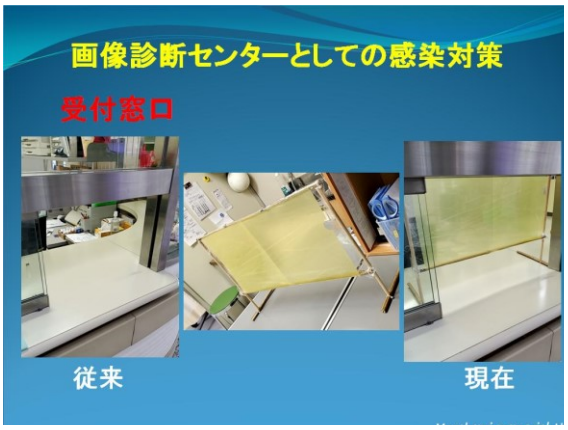


最初は発熱が37.5℃以上あり呼吸器症状のある方、感染拡大地域に行っていた方などに対してコロナ感染疑いとして対応していたが、スタッフによって対応が違うことがあり分かりやすくするために発熱37.5℃以上の人に接する時は感染予防をするように統一しました。

【感染予防着】

基本的には、フェイスシールド、マスク、ガウン、手袋を装着して対応しています。感染拡大地域から来られた方や濃厚接触者など感染リスクの高い人に接する場合は個人防護具（PPE）も必要と考えます。PPEについてもいつでも使用できるように準備はしています。

【受付窓口】



従来は30cm×40cmあった窓口を10cm×45cmへと自作の防護カーテンを作成し狭小化を図りました。こちらのラップとクリアファイルを用いて作成しました。使用後は毎日、アルコールを用いて除菌を行っています。

【消毒】

患者さんが触れたもの、触れた個所については撮影終了後、毎回消毒を行うようにしています。
患者さんが使用した検査着は院内の感染物専用の洗濯機で洗濯しています。

掃除道具は一括管理できるように使用していなかった点滴スタンドに手袋、除菌タオル、ごみ箱を設置して移動の手間を減らすようにしました。

【PCキーボード】

多数の人で触ることの多いキーボードはラップをまいて使用し、業務終了時には新しいものと交換するようにしました。細かい凹凸が多く掃除・除菌が大変なので少しでも接触部分を少なくするのにラップは有効だと考えています。

【換気】

換気時間については、部屋の大きさや窓の位置、空調などによって違いがありますが、検査等に支障が少ないように換気時間は15分という様に取り決めをしました。 また、いつから換気を始めたか誰が見ても分かるように撮影室の扉にホワイトボードを設置し換気開始時間の記載を行うようにしました。

また、プラズマクラスターが新型コロナウイルスに有効だという記事もあり、病院でプラズマクラスターを購入することとなり、画像診断センターにも2台設置をしてもらいました。

撮影室には窓もなく今までは換気に困っていましたがこちらを使用することで換気の時間を短縮することにしました。以前は15分換気していたのを5分に短縮しました。 ただし、いくら新型コロナウイルスにプラズマクラスターが有効だといっても過度な期待は禁物だという注意喚起もあり運用には十分注意をする必要があると考えます。

【課題】

今後、感染者の検査を行うこととなればゾーニングなども考えなければいけないと考えています。 その時にはディスポーサブルシーツを使用して装置や床の汚染防止の徹底も必要になってくると考えます。

また、スタッフ間で清掃する場所が違っていたりするので統一できるように清掃リストの作成も考えています。

部門内での感染予防知識の格差をどのようにして埋めていくかというのも考える必要があると思います。その一つとして、個人防護具の脱着訓練も必要だと感じています。着脱、使用後の処理の仕方が統一されてないので統一できるように調整中です。

【結語】

現在行っている感染対策がどの程度の効果があるか分からないが、1人1人が危機感を持って対応する必要があると考える。

必要以上に過敏になる必要はないが正しい知識を持って対応するべきである。

Withコロナ時代を乗り越えるために、個人単位でも何かできることはないか考え創意工夫をしてこの状況を切り抜けたいと思う 。